

2013年 6月14日

寿電設株式会社 eソリューションセンター

日本初、各種団体の音声メッセージを全国の会員へ発信でき 省力化とコスト削減に貢献する無料お任せサービスを発売します

～ メッセージ発信のアウトソーシングサービス「テレ講話」～ (*1)

地元京都・滋賀や東京に拠点を置き、通信工事やITインフラ整備をメインに活動している寿電設株式会社（本社：京都市伏見区 代表取締役 廣岡 伸洋）は、NTTコミュニケーションズ株式会社のテレドームサービスをベースにした新規自社開発の「テレ講話」サービスを6月21日に発売開始します。

●背景

- ・寿電設では情報通信設備工事を38年にわたり手がけて、京都を中心に首都圏、関西圏の情報通信インフラを支えてきた。同社の顧客である団体より「本部にたびたび来られない、インターネットが得意でもない会員に講話を聴いてもらう仕組みがほしい」との要望が寄せられた。同社はNTTコミュニケーションズ社から販売協力を受託しており、NTT商品に自社内で長年培った情報通信ノウハウを付加価値として活用した「テレ講話」サービスを開発した。
- ・宗教団体をはじめとした各種団体では、会員へのサービスとして、団体の講師による講話等を発信して、会員等に聴いてほしいと活動しているところが多い。発信媒体については定期印刷物が82%、インターネットが48%、ラジオ放送が24%という順であった。(*2)
- ・これらの媒体を利用するときは、原稿起こし、録音・編集等の労力負担やネットワークの専門知識が必要等々の課題があり、団体の職員労力と費用の負担は決して少なくない。
- ・利用する側も既存の媒体では「文字情報で読みづらい」、「放送時間に合わせられない」や「インターネットは使えない」等々の声を聞く、特に高齢者などには非常に利用しづらいサービスとなっている。
- ・電話を媒体として発信している団体も一部みられるが、テレ講話と仕組みが異なり運用に大きな労力や経費を割いているわりに、電話をかけてもいつも「話し中」であったり、つながっても講話の途中からしか聴けない等の利用者のストレスが大きく不評である。

(裏面に続きます)

●テレ講話の特徴

- ・全国の会員等の利用者は電話をかけるだけで都合のよい時に快適に聴くことができる。利用者は、電話の通話料だけの負担で時間に制限されず利用でき、電話が「話し中」にもならず、また聴きたい講話等の最初から聴くことができ快適である。(*3)
- ・サービスに関わる準備作業から、煩雑な設備の運用保守作業はすべてお任せできる。必要な機器の準備、回線・サービスの申込みのほか、煩雑な音源編集、運用や機器保守まですべて寿電設にアウトソーシングでき、ユーザーは録音と放送編成の指示のみとなり、運用の労力が最小限となる。
- ・サービスの初期費用は無料で、月々の運用費用も基本的に無料となる。利用者の利用数が一定量に満たない場合は、ユーザーに費用負担が生じる。ユーザーは経費負担軽減の必要があれば、会員等に対して利用促進の広報や周知対策を行う。
- ・情報発信の成果が都道府県別・日別の利用実績としてフィードバックされる。固定電話の利用分は地域別・日別集計ができ、携帯電話やI P電話分は日別集計となる。

(*1)「テレ講話」は商標登録申請済みで、知的所有権を保留しています。

(*2) 信者数上位50の宗教団体のホームページ等より当社調べ。

(*3) PHSと一部のI P電話からは利用できません。携帯電話の無料通話分の適用はありません。

本件に関するメディアからのお問合せ先

寿電設株式会社 eソリューションセンター 担当 松本 満廣

〒600-8813 住所：京都市下京区中堂寺南町134 京都リサーチパーク2号館 204

TEL：075-323-3232 Mail:tele-kouwa@d-kotobuki.co.jp